

報告タイトル	Harvard-Yenching Library 所蔵日本近世学芸資料調査報告
報告者所属名	日本文学研究専攻(国文学研究資料館)
報告者氏名	一戸 渉
Harvard-Yenching Library(ハーバード燕京図書館)について ボストン近郊のハーバード大学構内にある中国、日本、韓国、ベトナムなど、東アジア地域の人文社会科学一般に関する専門図書館。現在の北京大学の前身である燕京大学の蔵書を核として、その後継続して収集された日本古典籍(明治以前に日本において出版・書写された書物)の膨大なコレクションを所蔵する。それらの大半は岡雅彦、青木利行著『ハーバード燕京図書館和書目録』(ゆまに書房、1994年)によって目録化されているが、そこに漏れた資料も少なくなく、現在も調査は継続されている。	
	
本調査の概要 2007年7月1日より同8日にかけて、現地に赴いて調査活動を行った。燕京図書館に所蔵される日本古典籍は近世期に出版された板本が過半を占めているが、写本類も少なからず含まれており、それらの中には日本国内には現存していない書物も認められる。そこで本調査では、発表者の専攻する近世中後期の上方地方における文学・学芸に関する資料を中心に調査を行った。	
本調査によって得られた成果 今回の事業において具体的に調査を行ったのは、近世期上方の諸文人による著述、とりわけ和学や漢学、漢詩文に関する資料14点である。原本に即してそれらの書誌情報を採取し、また内容の確認を行った上で、必要なものに関してはデジタルカメラでの撮影を行った。ここでは調査を行った資料のうち、『必庵詩草』と題する資料について、その概要を報告する。	
	
『必庵詩草』冒頭部	
本書は、写本5冊、総計224丁にも及ぶ大部な漢詩文集で、著者は恵晃真瑞(太華上人)なる人物。本書の内容から判断するに、恐らくは京に住した天台僧か。なお、「必庵」は堂号であろう。佐井幹曼卿なる人物が安永5年(1776)に草した序文が付されており、それに拠れば、前年に没した友人太華の残した詩藻がこのまま世に埋もれてしまうことが忍びなく、せめて仲間内で永く伝えんことを願って編まれたものが本書である。序文には曼卿の印も捺されており、本書が彼による自筆稿本であること疑いない。本資料は日本国内では一切所蔵が確認できず、この燕京図書館本が今のところ唯一の伝本である。 また、本書の内容も実に興味深いもので、とりわけ漢詩の引題に見える人名に、天台僧の金龍道人敬雄や、この時期の京洛詩壇に名を馳せた龍草廬、伊勢の田淵徳郷、大坂の木村兼葭堂や那波魯堂、安房勝山藩主の酒井忠篤に仕えた木蓬萊など、実に多種多様な文人たちの名前が見える点は注目されよう。この他、伝記など容易に知り得ないような人物の名前も少なくない。従来その存在を知られていなかった本書は、こうした18世紀中葉の上方における文人たちの学芸活動について考察してゆく上で、実に有益な資料と言えるものである。	